

[経済同友会賞]

簿記を勉強することが私にくれたもの



三重県立宇治山田商業高等学校 国際科3年 小堀 咲 楽

私は、中学校の時の恩師に影響を受け、英語教諭になるという夢を持ちました。高校で今の自分の英語力を磨いて、英語教師になるという自分の夢に近づくために、私の住んでいる地域の中で最も英語教育に力を入れていた宇治山田商業高校に進学しました。しかし、入学した当初は、自分の想像とは全く違った学校生活に戸惑いました。なぜなら、商業科目である簿記の授業のほうが、英語の授業よりも多かったからです。その時、私は自分が商業高校生であり、普通科の高校生とは違うことを実感しました。そんな絶望に満ちた私に、父は日商簿記を受験することで新たな目標を持つことを勧めました。私の高校では、経理コースの選択者が、2年次の11月に日商簿記の2級を受験しています。しかし、父は1年次に独学で日商簿記の3級を受験し、他の同級生よりも早く日商簿記2級まで取得するとことを勧めました。この父の勧めがあり、私は、英語を学ぶだけでなく、日商簿記を受験するという新たな目標を持つことを決めました。そして、高校1年生の11月に3級を取得し、高校2年生の6月に2級を取得しました。父は、日商簿記2級を早い時期に取得することで、残りの高校生活を英語の勉強に集中して欲しいという思いから勧めてくれたのですが、日商簿記2級を取得した頃の私の心は、簿記の勉強を続けたいという思いで一杯でした。なぜなら、簿記の勉強が楽しいと感じるようになったからです。簿記は英語とは違い、必ず答えがある科目です。答え

を出すために多くの計算を強いられるため、とても時間のかかる科目でもあります。しかし、長い計算を経て答えにたどりついた時の達成感は、簿記を学ぶことでしか味わえないことだと感じました。そんな簿記の楽しさに気づくまでには、多くの周りの人の支えがありました。商業高校で簿記を学ぶことの良さは、検定取得の時、周囲の人がたくさん支えてくださることです。試験までの日々、空き時間を見つけては、何度も簿記を教えてくださいと頼んだり、授業担当でなくても、廊下ですれ違った時などに、「頑張れ」と応援して下さった簿記の先生。くじけそうになった時、励ましてくれた周囲の友達。私が独学受験をして合格できたのは、このような周囲の人々の支えがあったからです。だから、私はより深く簿記を学ぶために、日商簿記1級受験に挑戦しようと決めました。簿記の最高峰資格である日商簿記1級の勉強は、苦しいことばかりでした。しかし、他の生徒よりもさらに深い知識を学んで良かったと感じた出来事がありました。3年生から始まった課題研究の授業で、ある企業の財務分析をした時のことでした。初めて決算書を目にした時、何から始めたらいいのかわからなかったので、2年生の時の簿記の授業で学んだことをもとに分析してみました。分析をしていくうちに、企業の経営状況がどんどんわかるようになっていくことが嬉しく感じるようになりました。

そこで私は、1級で習った知識を使って、さら

に分析を重ねました。すると、おもしろいことに気づきました。分析結果はどちらの方法で行っても同じはずなのに、その答えにたどりつくまでの過程が驚くほど異なっていました。1級ではその取引でしか使わない勘定科目を多く習うので、決算書でそのような勘定科目を目にした時、こういう取引を行ったことが会社の経営に響いたのではないか、ここでこの科目が出ているということは、一定的な収入を得るために工夫をしたのではないかなど、経営者の立場になって考えながら分析ができたからです。1級の勉強をしていなければ、ここまで考えることができなかつたと思います。

3年間、資格の勉強を通じて学んだ簿記、商業高校の授業を通じて学んだ簿記、そして、課題研究の授業で今までの知識を生かすことで学んだ簿記、これら全てを通じて、私は様々な新しいことに気づき、新たな夢を見つけることができました。

私は、簿記とは、英語に続く第二の世界共通言語であると考えています。なぜなら、簿記は日本だけでなく、アメリカをはじめ多くの海外諸国で使用されており、簿記の世界基準を示す国際会計基準が近年、世界の多くの企業で採用されているからです。国際会計基準を採用することで、企業

の資金調達の方法が多様化します。また、海外に子会社を持っていても、同じ会計基準を使うことができるので、決算書の作成が今までよりも簡易化したり、企業の運営状況が把握しやすくなります。しかし、このようなメリットがあるにもかかわらず、日本ではあまり浸透していません。

だから私は、これから簿記と英語の勉強を続けて、国際会計士になりたいという夢を持ちました。国際会計士になることで、国際会計基準を多くの日本企業に広めていき、日本の企業と海外の企業がより大きな取引をしていく手助けができるような人になりたいからです。

商業高校で簿記を学ぶことで、私は人として大きく変わることができました。今まで私は、英語を学ぶことしか興味がなかったために、自分自身で新たなことを学べる可能性を狭めていました。しかし、商業高校に入学し、簿記を学ぶという新しい挑戦をしたことで、自分の可能性を広げられるようになりました。このように、私が変わるきっかけを作ってくれた父、それを後押しし、支えてくださった商業高校の先生方、そして今までずっと応援してくれた周りの友達や家族に、とても感謝しています。

